

# 住民ら招き防災訓練 岡山協立病院

岡山協立病院（岡山市中区赤坂本町）は7月25日、地域住民らを院内に招き、防災訓練を実施した。顔の見える関係づくりを進め、災害時に自助、共助の力を共に育むのが目的。

地元の門田本町町内会の役員、岡山東商業高の教員、岡山医療福祉専門学校の学生ら約15人が参加。参加者は、階段が使えないとの想定で救助袋を使って病院の2階から滑り降りた。

栄養剤や米など入院患者のための食品・飲料を備蓄している倉庫や透析室などを見学した。

意見交換会では「病院周辺は山があり住宅も多いので、火災や土砂災害が心配」「これからも訓練に参加し、お互いに助け合える関係をつくろう」「町内会としてもさらに防災対策を強化したい」といった声が出た。

住民らを招いた防災訓練は昨年に続き2回目。前回は大規模事故



時に治療の優先順位を決めるトリアージを見学してもらった。同院は今後も訓練を続ける方針。

（二羽俊次）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。